

第3回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

| | | | | |
|-----------|----------------------------------|---------|----------------|----------|
| 開催日 | 平成27年6月29日(月) | | | |
| 開催時間 | 開 会 | 午前9時30分 | 閉 会 | 午前11時30分 |
| 開催場所 | 市役所 多目的ホール | | | |
| 委員出席者 | 上伊那森林組合 | 伊藤 清 | 伊那市金融団 | 酒井 光一 |
| | 伊那商工会議所 | 唐木 和世 | 伊那市議会 | 伊藤 泰雄 |
| | 旧伊那市区区長会 | 赤羽 仁 | 高遠町地区区長会 | 守屋 和俊 |
| | 長谷地区区長会 | 池上 敏明 | 上伊那農業協同組合 | 矢島 洋子 |
| | 伊那青年会議所 | 池上 裕平 | 長野県経営者協会 上伊那支部 | 高嶋 厚 |
| | 連合長野上伊那地域協議会 | 日比野 誠 | 伊那市社会福祉協議会 | 小嶋 早苗 |
| | 伊那市保育園保護者会連合会 | 小澤 篤 | 伊那市教育委員会 | 松田 泰俊 |
| | 中部PTA連合会 | 下島 英喜 | 伊那市観光協会 | 向山 知希 |
| | 伊那市女性人材バンク | 唐澤 桂子 | 公募 | 二瓶 裕史 |
| 欠席者 | 地域交通事業者 | 板山 準治 | 信州大学 | 林 靖人 |
| 委員以外の出席者 | 上伊那地方事務所地域政策課長 | 池田 隆義 | | |
| 出席した事務局職員 | 総務部長 | 原 武志 | 人口増推進室長 | 飯島 智 |
| | 人口増推進係長 | 伊藤 透 | 人口増推進係 | 宮川 可南子 |
| 議 事 | (1) 伊那市地方創生政策スキームについて (2) その他 | | | |

| | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 配布資料 | 資料1 伊那市 地方創生政策スキーム 資料2 伊那市地方創生総合戦略策定に係るアンケート調査の実施要領 資料2-1 結婚などに対する意識調査アンケート票 資料2-2 転出者に対する調査アンケート票 資料2-3 転入者に対する調査アンケート票 資料3 定住自立圏構想推進制度の概要 補足資料 地方創生オリジナル・ドローイング |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

1 開会

事務局： おはようございます。早い時間の開催になりますが、本日はありがとうございます。時間になりましたので、唐木副会長の発声で審議会をはじめたいと思います。よろしくお願いいたします。

副会長： おはようございます。第3回伊那市地方創生総合戦略審議会を開催します。よろしくお願いいたします。

2 あいさつ

事務局： ありがとうございます。あらかじめ報告させていただきますが、お手元の名簿をご覧ください。本日は地域交通事業社（伊那バス）の板山委員、信州大学の林委員、2名がご都合により欠席の連絡がありましたので、よろしくお願いいたします。会議に先立ち、本日の審議会ですが、今まで副会長を務めていただいた酒井光一委員が、6月の組織改正により、伊那市から長野市に転出されました。金融団選出の委員として、酒井委員より矢島委員に交代しました。酒井委員には前回まで副会長をお願いしていました。審議会条例の中に、正副会長については委員会の互選とする旨の規定があります。事務局としてはぜひ、酒井委員後任の矢島委員に副会長をお願いしたいと思います。本来、みなさまに決定していただくことですが、そのようにお汲み取りいただければありがたく思います。ご理解いただけますでしょうか。

(満場一致)

事務局： ありがとうございます。それでは、酒井委員後任の矢島委員に副会長をお願いします。矢島副会長より、ご挨拶をお願いいたします。

副会長： ただいま、ご紹介をいただきました八十二銀行伊那支店長の矢島です。前任は法人部長として地方版総合戦略をどのように進めるのかについて、対応部署にいました。ぜひ、お役に立てればと思います。出身は辰野町です。伊那支店も2度目になり、今から十数年前にも4年ほど勤務していました。よろしくお願いいたします。

します。

事務局： 矢島副会長、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。続いて、伊藤会長より、ご挨拶をお願いいたします。

会 長： おはようございます。梅雨に入っておりますが晴れの日が続いておりました、今朝も大変さわやかな朝を迎えております。しかし、これからが梅雨の本番になりますし、気温も上がっていますので、体調管理に十分ご注意していただきたいと思えます。第3回伊那市地方創生総合戦略審議会を開催致しましたところ、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。前回の審議会では人口ビジョン総合戦略の策定の趣旨と、人口ビジョンの素々案について、ご検討いただきました。さらにアンケートについてもご協議いただきました。今日からは、総合戦略策定にむけての具体的な検討に入りますが、本日は伊那市地方創生総合戦略の枠組みについてのご協議をいただきたいと思えます。本日も前回同様に活発なご意見をいただけますようによろしくお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。それでは、協議事項に入ります。審議会条例の規定により、会長に議長をお願いします。よろしくお願いいたします。

3 協議事項

(1) 伊那市地方創生政策スキームについて

会 長： それでは、資料1について事務局より説明をお願いいたします。

事務局： (事務局説明、資料1)

会 長： ありがとうございます。資料1の地方創生政策スキームについての説明でした。伊那市独自の資料ということで、具体的に広範囲な資料になりました。事前に目を通していただいていると思えますが、何かご質問やご意見がありましたら、お願いいたします。

委 員： 人口減少対策の①出生率の増加策には、次代を担う優れた人材の育成と輩出として、地域社会の帰属意識を高めていくことが入ってくると思えます。その下の②転出抑制と転入増加策には、伊那市の教育を考えて、伊那市で子どもの教育を受けさせたい方もおり、注目されている事実があります。アクションプランに教育の内容についても入れていただければと思えます。

会 長： ありがとうございます。それに関連したご意見があれば、よろしくお願いいたします。

委 員： 関連して、子育てしやすいまち等は合計特殊出生率の増加策にもつながります。たとえば、子どもが生まれて保育園に入るところに、子育てしやすいまちに転出することがあります。転出抑制では、子育てしやすいまちを大きくアピールした方がよいのではないのでしょうか。実態はわかりませんが、伊那市より南箕輪村の方が子育てしやすいイメージが先行しているところがあります。伊那市は子育てし

やすいまちだと前面に打ち出せば、人口減少対策では非常にポイントになるのではないのでしょうか。

会 長： ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。それではこのことについて事務局からの意見をお願いいたします。

事務局： ご意見をいただき、ありがとうございます。二瓶委員のご意見のとおり、いま、人口を増やすという視点で、伊那市では教育が外せません。市長も常々申し上げています。その面では、全国でも先進的な取り組みが行われています。先ほどお話した趣旨も戦略に盛り込んでいく内容です。仕分けが人口減少対策の中で自然動態へのアプローチか、社会動態へのアプローチなのか、ボーダーにある部分もあります。漏れないように、書きぶりや組み立てについては次回以降、戦略の素案を検証する中で議論いただきたいと思います。子育てしやすい田舎ナンバー1な伊那市として、雑誌の企画でも取り上げられて、反響もあり、全国からの問い合わせもあります。松田委員のご意見にもありましたが、子どもを伊那小に通わせたいので引っ越しをしたいという相談が、専門相談員を常駐したワンストップ窓口に何件も寄せられています。子育て支援策だけではなく、魅力ある教育の展開、それを全国にむけて発信していく教育視点のシティプロモーションも入ってきます。社会動態と自然動態について、上手に書きぶりを調整しながら、次回以降、示していきたいです。

会 長： よろしいでしょうか。他にはいかがでしょうか。

委 員： 小学校時代からふるさとが非常よいところだという教育が正確に行われていれば、高校を卒業して、多くの方が都会に行き、そのまま定住して戻ってこない悩みを解決するためのきっかけになるとと思います。田舎に帰りたくない子どもたちの話を聞くと、役職が多い、勤める場所がない等、生活上の問題が入ってきます。しかし、ふるさとをどのようによくしていくかについて、一歩進んだ考え方が若い人にはありません。小学校時代から、学校の現場でふるさとが非常に素晴らしいところだということを教えるべきではないのでしょうか。ふるさとの伝統、ふるさとを愛する教育を今こそ、確実に行っていくべきではないのでしょうか。それが地方から出てふるさとに帰ってくる子どもたちが多くなることにつながると思います。戦略に入れる必要があると感じました。

会 長： ありがとうございます。前回の会議でも、ふるさとのよさ、今住んでいるところのよさを確認して、さらに発展していこうとする意見がありました。そのような視点が大事だと思います。これについて、ご意見があれば、お願いいたします。

事務局： ありがとうございます。伊藤会長からもお話がありましたが、前回の審議会で、この地域のよさを知らない方が大勢いるという意見が複数の方から出ていました。これは行政を進める中でも日頃から反省しなければいけないことです。す

ばらしい地域に住んでいながら、そのことを知らない、それが当たり前の生活になっています。それについては意識的に戦略の中に盛り込む必要があります。先日、東京の30校ほどの大学就職担当者が伊那市に来ました。懇談の話で、学生たちが伊那市に立派な企業があることを知らないため、安易に就職しやすい都会へ目が行ってしまうそうです。私たちが地域の優良企業等を紹介して、キャリア教育やインターンシップの制度を充実させていくことが必要になります。赤羽委員の意見は非常に重要なことだと思います。前面に出していきますので、よろしくお願いいたします。

会 長： そのような視点でプラン等をお願いいたします。他にはいかがでしょうか。

委 員： (2)の②の基本施策の小さな拠点づくりについてです。経済の活性化からは離れますが、中山間地では日常生活に不可欠な施設、サービスが必要になります。高齢者、障がい者、子ども等、分け隔てなく利用できる専門的なサービスが受けられることが必要です。伊那市社会福祉協議会では現存の施設を利用して、小さな拠点をつくることを考えています。アクションプランの中では小さな拠点づくりについて、具体的には示されていないと思いますのでお聞きしたいと思いました。

会 長： 私もまったく同じことをお聞きしようとしていました。基本政策の中では、小さな拠点づくりが示されていますが、アクションプランにはありません。このことについてお伺いします。

事務局： 小さな拠点とは、本来、国土交通省がコンパクトシティとして打ち出しました。集落の切り捨てと捉えがちですが、そうではありません。機能を効率的にして、各小さな拠点間を交通ネットワーク、メインではない枝線交通等を充実して、地域間の連携を取りながら、生き残れる集落をつくっていく考え方です。アクションプランには掲げていませんが、本日、意見をいただき、ここを膨らましていきたいです。今回の資料に掲載してあることはすでに国から認められて、財源をいただき、地方創生の事業として取り組んでいるものと、今後、上乘せしたい事業です。大きな柱の中ですべてをカバーはしていません。伊那市では約7,300万円の財源を国からいただき、掲載している事業に割り振ります。のちほど、情報を提供しますが、来年度以降の交付金のあり方が閣議決定されて、ニュースで流れていくところです。アクションプランにも入れ込む予定です。コンパクトシティを進めるためには、行政主導で進められる小さな話ではありません。集落、地域住民の合意形成の非常にむずかしい手続きが必要になります。非常に長期がわたるものであり、簡単に5年先のKPIを設定して評価できるものではありません。2040年の人口ビジョンのおおまかな目標にむけて、中長期の面では、小さな拠点づくりの考えは重要な柱になります。人口減少の歯止めをかける積極戦略として考えていますが、人口が増える想定にはなりません。いかに人口の減少幅を縮め

ていくかについては、人口が減少していくことを想定して、社会の構造に合わせて調整を行います。生き残りをかけて、社会が変わっていく調整戦略です。こちらにはスポットが当たりませんが、両面で戦略を描いていきたいです。

会 長： 小さな拠点についての説明でした。よろしいでしょうか。これについてはさらに勉強させていただきたいと思います。他にはよろしいでしょうか。

委 員： 転出抑制、転入増加策に広域交通ネットワークの構築があります。こちらの色刷り資料を拝見すると、リニア中央新幹線、JR飯田線等が描かれています。現在、東京の会議に出かける際、バスは時間が不確定で心配になります。決まった時間に着かなければならないときは、飯田線で岡谷まで出て中央線に乗り換えませんが、極めて不便です。新幹線は日本一早い交通機関です。新幹線ができると、その脇をローカルな線が走ると売りになる景色になると思いますが、岡谷で切れてしまうのは非常に残念なことです。飯田線が中央線に入れば、ますます利便性が高まるのではないのでしょうか。中央線が飯田線に乗り継いで、飯田駅まで入ってくるように進めてもらいたいと思います。

会 長： 今のご意見について、事務局はいかがでしょうか。

事務局： 色刷り資料の左下の「C. 広域交通ネットワーク構築」の部分をご覧ください。JR飯田線の活性化では、大きな3本の視点、利用促進、輸送力強化、利便性向上でとらえています。今まで、JR飯田線活性化に向けては行政主導で交通事業者と一緒に取り組みを進めてきました。リニアも見据えて、今後はまちづくりの一つのインフラとして考えて、ダイヤの連結、乗り入れについても利便性を高める必要があります。経済界、商工会議所、民間にも参画をいただき、県も一緒になって、伊那谷を中心に全市町村が入り、JR飯田線活性化期成同盟会を立ち上げました。取り組みは1年が経過しました。たとえば、伊那谷から長野まで直通できる快速便、さまざまなメインの路線への接続等、具体的な要望をJR東海や国に要望する活動を予定しています。戦略では、期成同盟会の活動等の充実等、柱立ての中で具体的な書き込みを行う予定です。地域間連携の基礎となるネットワークでは、さまざまなインフラを有機的に結び付けていくことは重要な視点です。素案の中に盛り込んでいきたいと思います。

会 長： どのようなかたちになるかはわかりませんが、検討をお願いしたいと思います。他にはよろしいでしょうか。

委 員： 新しい伊那市は旧伊那市と旧高遠町と旧長谷村で構成されています。旧高遠町と旧長谷川村は法の指定を受けた過疎地域です。今でもこの地域は過疎法の指定を受けて、過疎対策事業を行っています。新しい伊那市とは、都市部、勢いが無い部分、過疎地の部分が合わさり新しいまちづくりの中で、合併を行ってきた経緯があります。全体から見ればカラー資料の構想はよいと思いますが、伊那市の現実では、住民の生活の中で旧過疎地域の思いと心理的な格差が出ているのでは

ないでしょうか。過疎対策については、旧高遠町も旧長谷村も特別な対策をとってきました。特別な対策が緩くなれば、過疎地の後退が見込まれます。そのような観点から、新しい市が置かれている特殊な現状をとらえていただくことが重要ではないでしょうか。具体策はありませんが、このような思いがあります。

会 長： 守屋委員からの率直な意見でした。これについて、事務局はいかがでしょうか。

事務局： 合併して 10 年を迎えます。今までさまざまな政策を伊那市の発展のため進めてきました。特に過疎地域については、過疎法の適応を受けて、個別対応の事業を進めています。合併から 10 年、各地域に設けていた地域自治区を同じ目線、同じ制度で地方自治法の適法を受けるかたちにします。今後はやる気のある地域を積極的に応援していきたいと考えております。さまざまな地域で課題はありますが、住民のみなさまが、人口減少の社会を見据えた中で一定の危機感をもち、住民主導で行政と一緒に、集落を活性化していく取り組みを応援することを市長も申し上げます。このような視点で戦略の策定を行っていきます。個別の具体的な話では、過疎法が延長されました。伊那市でも今後同様にさらに充実した過疎地域での事業展開ができるよう、今年度は過疎計画の見直しも検討して、取り組んでいく予定です。

会 長： 総合計画の内容を十分に取り入れる話を前回もお話いただきました。過疎計画についても、そのような視点でも取り入れていただきたいと思います。守屋委員、よろしいでしょうか。

委 員： 最近、地域のやる気を見て、やる気のある地域に市はお手伝いする発言をよく耳にします。しかし、伊那市は市としてどのように対策してきたのか、私には伝わってきません。地域できちんと対策をとらなかつた結果、置いて行かれる状況になったと発言しているように聞こえます。私が住んでいるところは 100 戸未満の小さい集落です。高齢化率 50% 超えています。その中で活力が湧いてこない、すでに遅いと思っている住民のみなさまが多い地域が増えているのも事実です。地域の努力次第で、めりはりのついた市の対応をしていくという発言は、そこに住んでいる住民にしてみれば、さみしい思いがするのではないのでしょうか。事務局の回答を聞き、私はそのように受け止めてしまいました。趣旨が違っているかもしれませんが、そのような思いを付け加えさせていただきました。

事務局： 舌たらずで真意が伝わらずに申し訳ございませんでした。たとえば、国の指針が打ち出される前に地域と一緒にあってモデル的に進めているのが新山地域です。保育園も一時閉園になり、若い世代が少なく、ますます高齢化が進み、活力が低下しています。その中で地域の再生のため、地域おこし協力隊が、地域の住民の一人となり、一緒に活動を盛り上げていく活動を行っています。また、集落支援員として、伊那市の場合は雇用形態をとらずに民間の立場の方に集落支援活動に入らせていただいています。今までの行政が支援する方法では実際の成果につなが

りませんでした。そこは真摯に受け止めて、反省をしなければいけない部分だと感じています。新山地区の取り組みについての成果がどの程度表れてくるかは分かりません。モデル地域第1号として、受け皿の区の組織とは別に定住の促進協議会をつくり、努力しています。毎回、職員もお邪魔して、一緒に企画づくりも行っています。高齢化率の面で見ると、新山地区も非常に厳しい状況です。人口シミュレーションでも今後、大きく減少していく推移がされています。近々、過疎地域のみなさまにも声をかけて、新山地区の取り組みを見ていただき、実際にお越しいただき、参考にしていただく予定です。イメージがわかなければ手をあげるのはむずかしいと思います。過疎地域に限らず、他の地区のみなさまにも声をかけて、新山地区の取り組みを参考にしていただきたいと思います。地域により、人員の面でむずかしいこともあるかもしれません。その場合は集落支援員や私たちも一緒に取り組める体制をつくっていきたいと思っています。

事務局： 今回の総合戦略を策定する中で伊那市としての政策を一つ立てます。今まで、地域ごとの人口動態について、資料を示してきました。地域の特性、よいところや遅れているところ、人口動態にも大きな差があります。一つの事業を一律にやることは無理があります。アクションプランの一番上に記載した結婚、出産、子育て支援の事業の中ですでに取り組んでいる出産祝い金について、旧高遠町と旧長谷村では厚い制度を利用しています。現在、その取り組みを伊那市内全域に広めることを行っています。地域の特性を考えた上で一つの議論についてもそれぞれの特色をいかした政策が必要になります。いただいた意見は、これから総合戦略を策定する中で伊那市全体像としての考え方をもちますが、その中で、地域の特性をいかした上での制度設定をしていくことが非常に重要です。この視点を戦略に盛り込んでいきたいと思います。

会長： 総務部長のお答えにつきますかと思いますが、さまざまな地域の特性や事情を考慮しながら、新しい伊那市全体の政策をつくっていくことになると思いますので、ご理解いただきたいと思います。他にはよろしいでしょうか。

委員： 今の話に関連する話になります。新山小学校は、伊那市で最も小さな学校ですが、その中では大きな学校に勝るすばらしい授業を展開しています。旧高遠町の高遠北小学校ではそばづくり、大根やトウガラシの栽培、高遠そばを学校全体で生産しています。すぐれた実践が伊那市の各学校で行われていますが、よく見えてこない状況です。資料に遠隔教育が記載されています。ICTを活用して優れた先生の授業を伊那市全体で見られる、画面を通して授業を公開し合う取り組みを現在、考えています。非常に大きな取り組みです。大事に位置付けしていただきたいと思います。

会長： ありがとうございます。さまざまなご意見をいただきましたが、他にはよろしいでしょうか。先ほどの説明の中で具体的な事業は次回以降とお聞きしました。

この資料が送られてきたのが6月26日ごろでしたので、これだけのものを読み込むには時間が必要です。日程等については、後ほど説明があると思いますが、もう一度、委員のみなさまには持ち帰っていただき、読み込んでいただき、更にご意見があれば提案していただきたいと思います。いかがでしょうか。

事務局： 毎回、事前の資料配布が遅くなり、申し訳ございません。できるだけ早く資料を送付する予定ですが、次回以降、特に細かなK P Iの付きの個別の対応事業が入ってきます。より早い時期に資料が送れるように進めていきます。今日は特に新しい枠組み、スキームまで示しました。今一度、持ち帰ってご確認いただき、ご指摘等があれば事務局までよろしく願いいたします。

会 長： その他にはよろしいでしょうか。

委 員： スキームについてではありませんが、新聞にも出ていた各市町村で戦略を作成する際のコンサルティング会社との関わりについてです。伊那市でも株式会社名豊が入っています。コンサルティング会社との関係性が分かりません。この会議で出た意見を市の事務局の方たちもご苦労されていると思いますが、コンサルティング会社がまとめて行うものなののでしょうか。そこのところが分かりにくいので、説明をしていただきたいと思います。

会 長： 本日の資料の図は伊那市独自のビジュアルのもので、ご苦労されたと思います。事務局は説明をお願いいたします。

事務局： 本日も同席いただきましたが、伊那市は名古屋の株式会社名豊が入っています。役割分担についてですが、伊那市だけではなく、ほとんどの自治体で国の交付金を活用して、委託に出している状況です。今まで検討してきた基本的な柱立ては、私たちが原案を示しています。全国で報道されていますが、業者に丸投げをすると、相場的な総合戦略をコンパクトにしたものが出来上がります。限りあるコンサルティング会社ですので、当然、複数の自治体から委託されています。同じものが出来上がるのではないかと、国からも危惧されています。伊那市では、ドローイングは私たちの企画担当が書いていますが、市長の独自政策です。柱立てをする中で個別のものは今後の事業を進めていく上で外せないものや総合戦略と重複するものが多々あると思います。考え方、一番の柱になる日本を支えていくような地域を伊那市のみならず連携して、伊那谷で進めていく理念を基に、より戦略的で個性的なものにしていきたい考えです。業者とのすみわけは、市はかじ取り、戦略で言えば、素案の作成や作業的なものは委託して、製本までを含む実務作業が業者になります。大きな柱での思いが違わないような調整等のかじ取りは市が行います。基本的には市長から指示が出ます。審議会との関わりについては、6回と限られた会議回数ですので、真っ白な状態で素案づくりから行うことは実務上不可能です。そこで、毎回たたき台を示して、漏れているもの、改善点、違っているものについての意見を、これは戦略ですので行政では思いも及ばないよ

うな民間のアイデアやそれぞれの立場での視点でご指南をいただき、よりよいものにしていきたいと思えます。第6回で最終的なまとめを行い、市長に答申をお願いする流れの予定です。

会 長： 日本を支えていけるような伊那市を目指して、市で主体性を持ちながら、業者に事務的なことをお願いするということです。他にはよろしいでしょうか。特にないようですので、もう一度、資料を確認していただき、追加等があれば、直接、事務局や私の方へ提案をお願いいたします。

(2) その他

会 長： 定住自立圏について、事務局は説明をお願いいたします。

事務局： (事務局説明、資料3)

会 長： ありがとうございます。今後の戦略の中に入ってくるということで、よろしいでしょうか。つづいて、資料2について説明をお願いします。

事務局： (事務局説明、資料2)

会 長： ありがとうございます。2点ほど、説明がありました。ご質問等があれば、お願いいたします。

委 員： アンケートについて、前回も述べさせていただきました。議会で独自にアンケートを実施し、こどもが保育園に通っている保護者 800 人から各地区を選んで、回答していただきました。おかげさまで約 80%の回収率でした。内容を拝見すると、子育ても当然ですが、地域、市政、さまざまな書き込みがあり、まとめるのが大変な状況です。具体的に回答されていますので、ぜひ活用していただければと思います。よろしくをお願いいたします。

会 長： ありがとうございます。率直なご意見もありましたでしょうか。ぜひ参考にさせていただきたいと思えます。アンケートについては前回、提案して、ご意見をいただきました。その後2名からさらにご意見をいただきました。今回、意見も反映をされているので、よろしくをお願いいたします。

委 員： 感想になりますが、アンケートは分かりやすく、非常によいものだと思います。苦労されたと思えます。よい方向に向かっていただきたいです。

会 長： ありがとうございます。上手に活用していただきたいと思えます。その他について、定住自立圏についてもよろしいでしょうか。これらについても戦略の中に入ってくるということでよろしいですね。

4 その他

会 長： そのほか、みなさまからご意見があれば、よろしくをお願いいたします。

副会長： はじめての出席でしたので印象等、お話したいと思えます。全国で戦略が練られていますが、伊那市は他の県外の市町村に比べても非常に多くのコンテンツが

あると感じています。産業、農業、自然、水、太陽、土地も膨大にあります。観光もこれから磨けば光る観光資源が非常にあると思います。立地も中京圏、首都圏からも近く、圏央道を利用すれば埼玉からも短い時間で来ることができます。大学も短大もありますし、三遠南信自動車道とリニア中央新幹線が10年後くらいにできます。これからさまざまなかたちの具体的な施策を行っていけば、必ず、元気になる地域だと考えます。農業の独自化、企業創業、研究開発が来れば、本社から地域に出ると補助金が出る制度もあります。名古屋から北陸まで入ると鍾乳洞の観光ルートがあります。太陽光、小水力、バイオマス等、発電を産業観光でご覧いただくことも可能です。非常に広い地域ですのでIT化が進めば、徳島県の高齢者がITを利用する事例もありますので、二次交通を補完できます。東京首都圏は10年後、医療機関が非常に少なくなり、医療も介護も受けられなくなると言われています。セカンドキャリアとして、60歳を過ぎて、元気なうちに戻って活躍していただくこともできます。KPIで具体的な施策を機械で測れるものについて取り組むのか、いつ、誰が、どこに対して、どのように、何のためにやっていくかについて、会議で一つ一つ詰めていけば、明るい伊那市になるのではないのでしょうか。はじめて参加をしての感想でした。

会長： ありがとうございます。非常に勇気が出る感想をいただきました。その他は特によろしいでしょうか。それでは、進行を事務局にお返しします。

5 閉会

事務局： ありがとうございます。会長と副会長からはまとめをいただきましたが、改めて矢島副会長より締めあいさつをお願いいたします。

副会長： さきほどお話をした通りです。ひとり一人が力を合わせて、輪が広がれば、必ずよいまちづくり、地域づくりになると思います。これだけの集まりがあり、みなさまの周りにも多くの意見をもっている方がいると思います。広くご意見をいただき、市と一緒にすばらしい戦略を作り上げていきたいです。はじめての参加で分からないことばかりですが、これから一生懸命がんばりますので、よろしくをお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。それでは事務局から次回の開催日程等について説明いたします。

事務局： 二点ほど、お願いがあります。一点目、次回は7月31日金曜日、午前9:30から2時間程度の会議を予定していますので、よろしくをお願いいたします。もう一点、講演会のお知らせです。地方創生の理解を深めるための講演会を予定しています。7月27日月曜日、午後1:30から伊那市役所501、502会議室で予定しています。詳しくは改めてお知らせしますので、多くのご参加をお待ちしています。事務局からは以上です。

事務局：事務局から二点の報告がありましたが、ご質問等はよろしいでしょうか。講演等、内容が決まり次第、改めてお知らせさせていただきますので、よろしく願いいたします。それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了します。ありがとうございました。